



特定非営利活動法人

プロジェクトゆうあい

- ◎島根県松江市を拠点に地元松江～全国まで幅広く事業展開
- ◎職員は常勤7名。うち視覚障害者2名、聴覚障害者1名。
- ◎平成20年度・内閣府バリアフリー・ユニバーサルデザイン功労者表彰受賞

【発表者】

●三輪利春（理事長）

交通事故により失明し、盲導犬の使用者となる。音声読み上げソフトによりパソコンを活用。プロジェクトゆうあい設立以前に、パソコンボランティアのつながりから生まれたソフト会社「ネットワーク応用通信研究所」設立に関わる。同社には、世界的に注目を集めるプログラミング言語「RUBY」を開発した、まつもとゆきひろ氏が在籍する。

●田中隆一（事務局長）

技術士、一級建築士。地域づくりのコンサルタント会社「計画技術研究所」勤務を経て、プロジェクトゆうあい設立に関わる。障がい者の社会参画支援とまちづくりの接点を、ライフワークとする。横浜から島根にIターン。4人の子供がおり末っ子はダウン症。

わたくしたちは、障がい者、健常者のへだてない  
誰もが自立して豊に暮らすことができる  
新しい社会の仕組みづくりに取り組んでいます

# プロジェクトゆうあいの障害者の社会参画支援とICT活用に関する取組み

## ◎触覚ディスプレイ（視覚障害者向け）の開発支援、普及



●触覚ディスプレイへの表示



### ●触覚ディスプレイの利用の様子

視覚障害者にはものの形を伝える手段が限定される中、触覚ディスプレイを活用することにより、パソコン内の様々な図形を、表示させることができる。

電子メールでのファイルのやりとりも可能。視覚障害者の「写メール」がこの装置によって、世界ではじめて可能になった。

## ◎てくてくラジオ（視覚障がい者むけ微弱電波音声案内システム）の普及



### ●AM微弱電波音声発信装置

総務省系の独立行政法人である情報通信研究機構の助成を受けて開発された。

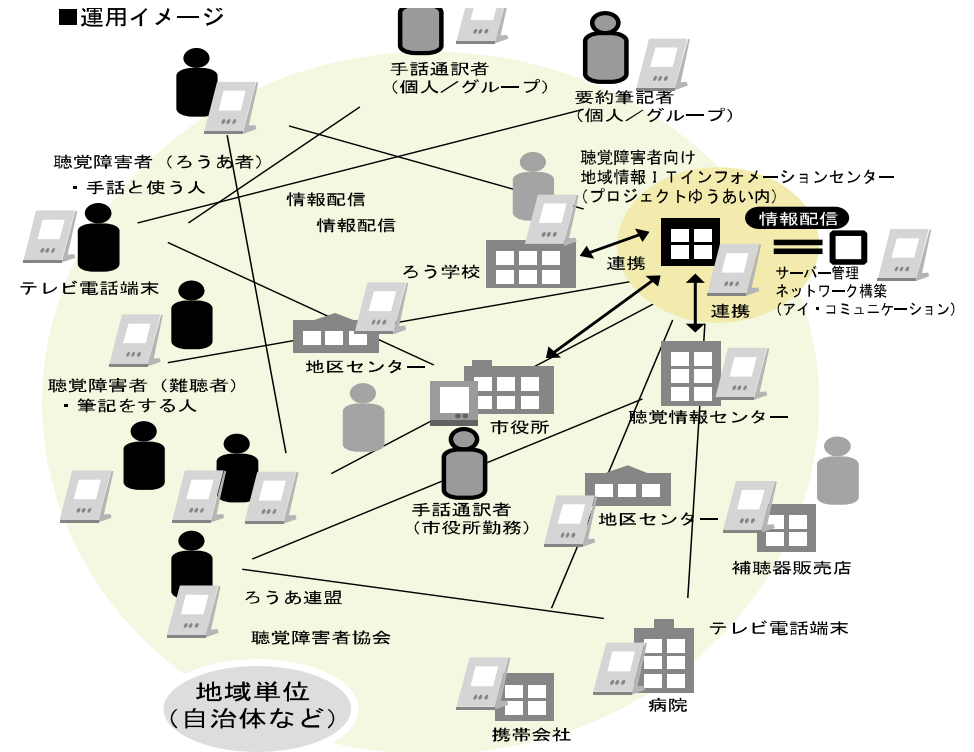
機器開発だけでなく、サービスの実施を含めた珍しい助成の仕組み。



### ●静岡で開催されたユニバーサル技能五輪国際大会での「てくてくラジオ」

市販の携帯ラジオを活用し、数メートルの範囲の弱い電波をキャッチして音声情報を得る仕組み。全国で（世界で）プロジェクトゆうあいのみ扱っている仕組み。

## ◎聴覚障がい者の情報支援



### ●携帯ゲーム機を用いた聴覚障がい者情報支援

任天堂DSを端末に活用した、観劇における字幕提供支援、ピクトチャットを活用したコミュニケーション支援。

### ●テレビ電話端末を活用した聴覚障害者双方向告知システムの開発、運用

聴覚障がい者が、日常的にテレビ電話を活用して、手話や筆談によるコミュニケーションを円滑化させる取り組み。

## ◎インターネットと情報支援に関する啓発活動



### ●パソコンのアクセシビリティ研修

視覚障がい者にも見やすい（音声読み上げにより操作しやすい、聞きやすい）ホームページの作り方が、これからは重要であることを多くの人に伝える。



### ●インターネット安全教室

インターネット、電子メールを安心して使っていけるよう、地域単位での勉強会を開催。最近では、新聞に連載記事も掲載。

## ◎まちのバリアフリー調査とバリアフリーマップ・web作成



### ●てくてくマップ松江

まちのバリアフリー状況を調査し、  
1枚のマップに情報を整理する。  
各地で、バリアフリーマップづくり  
が進むことが望まれる。

### ●てくてくWEB松江

ホームページを通じてバリアフリー  
情報発信をする。  
視覚障害者にも見やすい（聞きやすい）  
サイトにするための技術的な工夫を  
取り入れることも重要。

## ◎障害者の旅をサポートする取り組みとICTの活用



### ●バリアフリーツアー

障がい者の旅行ニーズは増えている。情報面での支援ニーズが高まっている。

A screenshot of the website 'てくてく山陰' (Te-kuteku San'in). The page features a navigation menu on the left with categories like '観光施設バリアフリー情報' (Tourist facilities barrier-free information), '交通機関バリアフリー情報' (Transportation barrier-free information), and '宿泊施設バリアフリー情報' (Accommodation barrier-free information). The main content area has two large banners: '山陰バリアフリーツアーセンター' (San'in Barrier-free Tour Center) and '松江バリアフリーツアーセンター' (Matsuyama Barrier-free Tour Center). The site's header includes the slogan 'あったかおもてなし・でかけよう神話の国へ' (Warm hospitality, let's go to the land of legends) and a search bar.

### ●バリアフリーの旅支援サイト「てくてく山陰」

ホームページを通じて山陰の観光地におけるバリアフリー情報を発信。

電話、電子メールを介して、障がい者からの旅行の相談を受け付ける。



# プロジェクトゆうあいからの施策提言

## 提言 1.障がい者の情報支援の推進

- 各種障がい者への情報支援は、それぞれの障がいに応じてニーズが多様化している。それらを浮き彫りにし、ひとつひとつ解決する手段を見出すことによって、個々の障がい者の社会参画につなげることができる。
- 障がい者の支援機器やサービスを適切にアドバイスできる「障がい者支援機器アドバイザー（コーディネーター）」などの人的な仕組み、組織を広めることが必要。
- ホームページ、各種のソフト等については、様々な障がい者に対応できるよう、情報アクセシビリティの向上を推進するべき。

## 提言 2.地域ごと、人に応じた、きめ細かな情報支援

- 地域や年齢による情報格差が広がらないように、パソコンの基本的な使い方、各種の機器やソフトを知らせたり、使い方を教えるための、人の介在が重要。
- そのためには、パソコンボランティアの育成、ネットワークづくり、パソコン勉強会、情報研修等の充実が必要であり、これらの取組みが、地域の雇用にもつながる、という視点を持つことが重要。
- 地域の活性化や地域内の情報共有に関して、地域SNSは、有益なツールとなっている。地域SNSを例として、ICTが地域活性化の手段となることを認識すべきである。

## 提言 3. 各種の研究開発等助成の施策の継続

●小企業、NPOへの公的助成の仕組みは絶対に必要。社会全体から見て、少ない経費で高いレベルの技術開発が生まれている。事業仕分けの結果、末端で頑張る者の芽を摘むようなことは避けるべき。

●補助金のルールを柔軟にするべき。補助金の運用を厳格にし、細かくすることによって、助成元、助成先双方の事務作業が膨大に増えることは、社会的な損失である。経過のチェック以上に重要なのは、開発や事業化への適切なアドバイスである。

●研究開発までできても、次のステップである商品化は別次元である。研究開発されたものを、公的機関が積極的に製品として購入する、という支援の方法もある。